

学校教育目標 **かかわりの力を育てる** 目指す子ども像 **「自分が置かれている場面に応じた行動ができる人」**

【評価】 保護者、教員アンケートによる評価：A：3点 B：2点 C：1点 D：0点 点数の合計で評価 [項目満点：51点 (教職員：21点 保護者：30点)]  
 達成度：A 達成できた(8割以上) B ほぼ達成できた(6~7割) C あまり達成できなかった(4~5割) D 達成できなかった(3割以下)

項目	重点目標	教職員	点数	保護者	点数	達成度		達成状況(成果：○ 課題：△ 課題に対する改善策：→) ㊟…評価内容の番号
						項目毎	目標毎	
児童・生徒 への 支援	全般	①教育目標『かかわりの力を育てる』について、授業や学校生活の中で意図的に指導する。	15			B	A (80%)	○1年生の4月~5月初旬までの日課について、児童の実態に合わせて弾力的に運用した。来年度はさらに多くの1年生が予想されるので、スタートカリキュラム等についてさらに細かく検討していく。 ○「1年生を迎える会」では3年生以上の児童がそれぞれの役割を果たすことができた。 ○給食準備開始の時刻を確認したことにより、全校で足踏みをそろえて行えた。 ○給食に関して、定期的に保護者にお便りを発行し、情報提供をすることができた。また、掲示コーナーでイラストや飾りなどを工夫して月目標や毎日の献立を知らせた。多くの児童が興味をもって見ていた。 △運動量が、十分に確保されていない。→歩行の時間など日常的に確保する。
		②子どもたちは、楽しく学校生活を送ることができる。	16	お子さんは、学校に来るのを楽しみにしている。	28	A		
		③学校生活において、児童の運動量、活動量が十分に確保されている。	13	体を動かすことが好きになるような活動が実践されている。	26	B		
	個別に応じた授業の充実	④個別の指導計画を作成、評価することにより個に応じた支援に取り組む。	14	お子さんに合った指導・支援がなされている。	28	A		
授業改善と特別支援教育の専門性の向上	⑤年間指導計画の活用と学習の振り返りを通し、支援のあり方についての授業改善に努める。	13	天童校の職員から特別支援教育の専門性を感じ取ることができる。	28	B	A (80%)	④今年度から評価検討会を計画し実施した。上学年、下学年に分かれて、担任が記載した通知表をもとに、通知表の記入の仕方の統一ができた。例えば上学年の音楽については観点別の項目に統一、行事生単の評価では事前、当日、事後学習の内容を明確にして評価。下学年では学習項目と内容を照合し、ねらい、手立て、評価を複数の目で見合うことができ児童の成長を実感し共有した。 ⑥計画通りに授業研を実施することができた。これからは授業改善につなげていきたい。 ⑦校内では、遊びの研修(柳川先生)、他校の研修会(授業研究)にも計画的に参加することができた。 ⑧二校連絡会を定期的に2回行った。月予定を持ち寄り話し合うことで両校の計画等について共通理解を図り、スムーズに実施できた。 ⑨本校、山形校との交流を計画通りに行うことができた。PTA総会時、運動会、学年ごとの交流学習、メッセージカードのやりとりなど、交流を積み重ねている。 ⑩津山小とフレンズデーの交流を計画通りに行うことができた。また、授業で作ったものをプレゼントし合う交流もあり、その後の自然なコミュニケーションにもつながった。3学期も継続し、同世代の子どもとの関わりを深めていくことができるようにする。 ⑪居住地校交流では、相手校との連絡を取り合ってスムーズに進めることができた。回数を重ねることで、児童も雰囲気慣れ、相手校児童と関わりながら活動を楽しむことができた。 ⑫今年度も地域交流で花のプランター作りを実施することができた。毎年継続することで、児童も見通しを持ち、高学年は事前準備から活動することができた。地域の方と自然に関わりながら活動を進めることができた。	
	⑥計画的な授業研究会を通じた授業改善と研修会への積極的な参加により専門性の向上に努め。	15						
	⑦特別支援教育に関する研修会の企画、実施と校外研修会へ参加を勧める。	15						
人との関わり方や自分の思いを伝える力	⑧津山小学校、本校、山形校との連携した交流及び共同学習とキャリア教育の視点から捉えた学習活動を通して、人のかかわり方や自分の思いを伝える力を育む。	14	本校や山形校、津山小学校児童との交流など様々な人と関わる学習が計画的に行われている。	28	A			
△個別の指導計画と年間指導計画については、両者がかみ合っていない感じがある。 →校内研修(井上先生の指導等)を生かし、学習部や学部と連携しより活用できる計画や内容を作成する。 △キャリア教育の視点から学習活動の場は整理されてきたが、場面に応じたコミュニケーション力を高める取り組みはまだ不十分と感じる。→交流時のねらいに、かかわり方や自分の思いを伝える力に関することを入れ、手立てを考えることが必要である。								
安全な学校生活	安全な学校生活	⑨「ヒヤリハット」の事案や課題等の共通理解をして、事故の未然防止と事故のない学校生活に努める。	15	お子さんの健康・安全が守られ、学校に安心して任せることができる。	30	A	A (83%)	⑨いじめアンケートの調査結果では、いじめの事案はなかった。(6月、11月) ⑩ギャラリーで安全に遊べるように、技能員さんの協力もあり整理整頓や清掃を行うことができた。 ⑪児童が体育館から飛び出したという事故対応したことで、その後は事故も無く、安全に活動している。 ⑫児童に関することや急を要したこと(ケガをしたことや校外に飛び出たことなど)は、速やかに家庭に報告連絡し、事実を伝えると共に再発防止の対応策も伝えすぐに対応した。 ⑬今年度も津山小、干布小が計画した心肺蘇生法講習会に参加し、研修することができた。 ⑭プール学習時における緊急時対応訓練を計画し、実際に全職員で動いてみた。安全管理体制を確認したり、必要な物を準備し備えたりすることができた。また反省をもとに改善できることはすぐ実行に移してプール学習を始めることができた。 ⑮毎月の安全点検や報告などから、安全に対する意識を常にもち、事故防止に努めることができた。 ⑯「不審者から身を守る指導」では、児童が被害に遭いそうな場面を想定し、ロールプレイをしながら具体的に指導することができた。 ⑰津山小と連携し、火災、地震、不審者を想定した避難訓練を計画的に行うことができた。
	安全管理の体制	⑩津山小と連携した避難訓練の実施、安全マニュアルの全職員の周知により、適切な危機対応の体制を整える。	16	津山小の体育館、グラウンド、ギャラリー、プールを安全かつ有効に使って活動していることが伝わってくる。	25	A		
	情報の管理	⑪個人情報の保護、情報管理の徹底を図る。	16			A		
△教科書選定について 29年度使用教科書選定での事故(二重給与)を起こしたことについての改善策 ・個別の履歴表を改め、確認しやすいものにする。(選定者、教科書選定委員会) ・校内で選定理由の吟味、履歴との厳格な照合、選定委員会の実施を必ず行う。さらに納入指示提出時期に再度履歴との照合を行う。 ・主たる教材として学校での管理をしっかりして活用する。 ・1年間使用した教科書を家庭に持ち帰るとともに、必要に応じて家庭から持参できるように管理してもらう。								
相談支援体制の充実	相談支援体制の充実	⑫必要に応じて関係機関との連携を図り、就学相談や進路相談について相談支援体制の充実を図る。	16	学級担任は、お子さんの日頃の学校での様子について、保護者とよく連絡を取り話しあっている。	28	A	A (88%)	⑫PTA保護者研修会に6名参加した。福祉事業所の見学は進路研修として貴重な機会だった。また参加できなかった保護者へも「進路だより」を発行し研修内容を報告することができた。 ⑬他校の授業研究会の助言者(14件)、研修会講師(5件)等、センター的機能を昨年度以上に果たすことができた。 ⑭放課後等デイサービス職員との情報交換を積極的に行うことができた。 ⑮昨年度同様学校紹介リーフレットを作成し、天童市内の小中学校、幼稚園、保育園に配布した。
	天童校の情報発信	⑬学校だよりや学校紹介のリーフレットを作成し関係機関に配布することにより、天童校の情報を発信する。	18	学校は情報を発信したり、アンケートで保護者を聞きいたりして、理解や協力が得られるよう努めている。	28	A		
授業づくりのため教材研究に使う時間の確保	授業づくりのため教材研究に使う時間の確保	⑭放課後の会議の精選を図り、授業づくりのための教材研究等に使う時間の確保に努める。	16			B	A (82%)	⑮学部主任が一覧にした翌週の学習計画を全職員に配布し見合うことで、全学年の学習の様子や全体の動き、教材教具の調整や補欠体制なども含めて把握できた。 ⑯日生の指導について教師間で共通理解し協力できたことや1日の流れを見て担任を中心にタイミング良い指導が成果につながった。特に1年生は2学期のスタート時に排せつの指導に力を入れ、その結果、男児2名のオムツがとれトイレでの排せつが確実になった。 ⑰定時退校日を計画的に設定し、確実に実施することができた。 ⑱児童を語る会では、全学年の児童について語り、情報交換をすることができた。また、その後の体制づくりにも役立った。
	課題解決に向けた全職員の取り組み	⑮日頃から教師間で共通理解を図り、課題解決に向けて全職員で取り組む。	15	担任だけでなく、職員みんなで指導支援していることが伝わる。	28	A		
△会議の精選について→臨時の会議では、その内容により柔軟に参加する職員を検討する。 △全職員で取り組むことについて→授業支援等で、一部の職員に負担が偏らないように計画、実行する。								

